

## 今年度も地球環境基金助成が決定

## 酒パックリサイクル集中キャンペーンを実施

集めて使うリサイクル協会は、昨年度に続いて独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受け、アルミパックのリサイクル促進に取り組むことになりました。今年度は、昨年度に実施した調査を踏まえ、全国数カ所においてアルミパックリサイクルモデル事業を実施します。モデル事業は、アルミパック回収拠点となるエコ酒屋と各地域の小売酒販組合に協力いただき、一定量のアルミパックを集めて持参された方に景品を差し上げるポイントシールキャンペーンを中心とします。

## ＜キャンペーン実施地域＞

今年度は、地域を限定し酒販組合として取り組みが可能なエリアで、期間も11月から2月の最も日本酒が売れる年末年始の4ヶ月に絞って、酒販店を回収拠点にした酒パック回収を集中的に行うことにしました。キャンペーンを実施するのは、熊本小売酒販組合、宮崎小売酒販組合、南但小売酒販組合(兵庫県)、高槻酒類調味食品事業協同組合(大阪府)、静岡小売酒販組合の5組合とその傘下の「エコ酒屋」です。5地域で合計150のエコ酒屋さんがキャンペーンを展開します。

## ＜キャンペーン実施方法＞

地域、組合によって展開方法は若干異なりますが、概ね下記のような内容となります。

- ① キャンペーンは、各小売酒販組合単位で取り組む。  
・参加する各エコ酒屋には、次のようなキャンペーングッズを配布します。

キャンペーンマニュアル、キャンペーン用酒パック回収BOX、キャンペーンチラシ(裏面がポイントシール貼付用の台紙となっています)、店頭配布用エコ酒屋油とり紙、ポイントシール

- ② 地域にキャンペーンを告知

＜熊本・宮崎＞地元新聞にチラシ折込配布

- ・地域小売酒販組合名並びに、傘下のキャンペーン参加「エコ酒屋」名、住所を記載

＜南但＞朝来市・養父市の広報紙と一緒にチラシを宅配

＜高槻＞ペットボトルと一緒に行政の委託事業になるため、独自のチラシを作成。

タウンペーパーに折込。

- ③ 各店では

- ・キャンペーン用回収BOXを店頭設置

- ・お客さんに、油とり紙およびキャンペーンチラシ(折込チラシと同じ)を配布。協力を呼びかけ

- ・酒パック等を持参してくれたお客さんにはポイントシール差し上げ、台紙に貼って集めてもらう。(1.8リットルもしくは2リットルを基準とし、小型容器については合算して基準容量で1ポイントとする。)

- ・10ポイントでBOXティッシュ5箱、20ポイントで芯なしトイレトペーパー130m巻6ロールと交換。(それぞれ牛乳・酒パックの再利用製品)

＜高槻＞行政の委託事業を兼ねているため、今回は市民向けのプレゼントはなし。

\*このキャンペーンは、当面2006年2月まで実施します。

ALMprj.

酒パックも アルミ付紙パックもリサイクル

あなたの街のエコ酒屋へ

酒

酒パック

アルミ付

キャンペーン期間  
今日から～2/20(月)まで

エコ酒屋宣言  
酒パックを回収するお店

あなたの街のエコ酒屋さん  
酒パックをお持ちください  
\*このシールが「エコ酒屋」の目印です。

キャンペーン期間中、上のシールを目印に「あなたの街のエコ酒屋」さんに、酒パック&アルミ付紙パックを(洗って・開いて・乾かして)お持ちください。総容量1.8～2リットルごとにシールを1枚お渡し致します。チラシ裏面の枠にシールを貼ります。シール10枚たまるとうったねプレゼント、20枚たまるとおめでとうプレゼント進呈!!  
紙パックを回収してトクしましょう!!

酒パックや、アルミ付紙パックはリサイクルできるんです。トイレトペーパーなどの再生品になって帰ってきます。全国に増え続ける「エコ酒屋」さんが、店頭で回収BOXを置いてあなたのご来店をお待ちしています。

静岡小売酒販組合 | 特定非営利活動法人 集めて使うリサイクル協会

キャンペーン用チラシ。裏側がシール台紙となっています。

# 第19回牛乳パックの再利用を考える全国大会

集めて使うリサイクル協会が事務局として大会を運営

去る8月6(土)・7(日)の両日、大阪の梅田スカイビルで開催された「第19回牛乳パックの再利用を考える全国大会」は、2日間で延べ1,300人の参加者を集め、無事閉幕しました。今回は大阪開催ということで、当協会が事務局を務めることになり、協会メンバー、とりわけ大阪の会員企業の皆様はじめ、お世話になりましたすべての方々に改めて御礼を申し上げます次第です。

1年以上前から準備に入り、実行委員会でも協会メンバーにそれぞれ重要な任務を担っていただき、お忙しい中、大会成功に向け奮闘していただいたおかげで、評価の高い大会にすることができたと喜んでおります。

私ども集めて使うリサイクル協会の立場から、この大会を総括してみたいと思います。



8月6日(土)に行われた開会セレモニーのようす。

## 牛乳パックに特化した大会に 延べ1,300人が参加

牛乳パックを中心にした「集めて使うリサイクル」に関わるメンバーを軸に構成している協会が事務局であり、実行委員の多くも牛乳パックに少なからずかかわりを持ったメンバーが集まったという、近年では珍しい実行委員会が構成されました。そんなことから、今大会は牛乳パックに特化した大会とすることが最初から全員の意思でもあったと言えます。

大会が近年、環境問題全般に間口を広げ、多方面の関係者を呼び込もうとしている中で、逆行するような、初めから終わりまで牛乳パックという大会になったのですが、ふたを開けてみると1300人の参加を見、全体集会や交流会、分科会とすべての会場が人で埋まりました。牛乳パックリサイクルが、まだまだ展開次第で力を発揮できることを感じさせる2日間になったことは、そこに关わる私たちにとって大変勇気づけられることでした。



全体会の会場もほぼ満員となりました。

## 実行委員会手作りのビデオ 「牛乳パックリサイクル最前線」

大会は、牛乳パックリサイクルの循環システムに関わるそれぞれの団体・企業・人が登場し、活動を紹介すると同時に、課題や問題点を提起し、2日目の分科会でテーマ別に掘り下げる形がとられました。

### ●ビデオ上映

実行委員会手作りビデオ「牛乳パックリサイクル最前線」では、障害者作業所の牛乳パック回収や、商品開発の様子を紹介。また協会メンバー企業のリサイクル事業の紹介を行いました。

### ●シンポジウム

「牛乳パックリサイクルと容器包装リサイクル法」をテーマとして、同法の見直しをめぐる意見交換を行いました。経産省、全国パック連、中身メーカーとともに、協会メンバーである古紙問屋・製紙会社がパネラーとなり、容り法に関しての意見を交換しました。



容器包装リサイクル法をテーマに行われたシンポジウム。



## 「集める」から「使う」まで 多様な視点で関係者が討論

### ●分科会

2日目の分科会は、1日目を受け「集める」「進める」「作る」「使う」というまさに「集めて使うリサイクル」を各テーマに分解、そこに関わるメンバーを中心に熱心な討論がなされました。

第1分科会では、「集めまっせ～牛乳パックの地域回収システム最前線」として、自治体、作業所、市民団体などが各地域で築いてきた回収システムの紹介がありました。

第2分科会では、「進めまっせ～学乳パックリサイクル&環境教育」として、現在全国的に大きな課題となっている学校給食用牛乳パックのリサイクルに関する事例報告などがありました。

第3分科会では、「作りまっせ～牛乳パックリサイクルによる仕事づくり」として、事業者（家庭紙メーカー、板紙メーカー）及び福祉作業所における再利用技術の現状や課題を話し合いました。

第4分科会では、「使いまっせ～再生品の利用促進の取り組み」として、リサイクルを促進するために不可欠な再生品の利用促進について、企業や市民団体の事例を踏まえて討議しました。

第5分科会では、「喋りまっせ～どうする、どうなる牛乳パックリサイクル 私からの提案」として、牛乳パック運動や全国大会のあり方についてざっくばらんなフリートークが展開されました。

### ●展示コーナー

また2日間を通じてメイン会場では、当協会と全国牛乳容器環境協議会が、テーマ展示として、牛乳パックリサイクル、酒パックリサイクルをパネル等で訴求、飲料容器を原料にして作られた各種商品を展示しました。その他会場内には、協会メンバー企業が、各社の商品を展示、あるいはサンプル配布して、参加者にリサイクル商品をアピールしました。



5つのテーマに分けて行われた分科会。

## 大阪での新たな出会いから 新たなステージ・新たな活動へ

実行委員会をスタートさせ、大会実行委員長をどなたにお願いするかというとき、以前NPO法人ごみゼロネット大阪のセミナーにパネラーとして協会が参加したご縁で、その代表である大阪市立大学大学院の惣宇利教授にお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。さらにはお忙しい中、大会開催に向け随分走り回っていただきました。

そして先生の関係筋から、副実行委員長や協賛団体の推薦等をいただき、また大会運営にも大阪市消費生活合理化協会の皆さんの協力を得られたことなど、大きな力添えをいただきました。また、実行委員の皆様のご協力もさることながら、先に書いた協会メンバーの協力とあわせ、惣宇利先生の名実共に実行委員長としてのご活躍が、大会を成功に導いた大きな要因と考えております。

私ども「集めて使うリサイクル協会」は、NPO法人として大阪府の認証を受けてまだ1年半ほどしか経っていません。地元大阪をベースにした活動もほとんど無かった中での、事務局としての大会開催は、地域と地域内の他団体にその活動を理解してもらう非常にいい機会になったと考えています。

この大会で触れ合った多くの人、団体との関係を大切に、今後もいろんな取り組み、プロジェクトをともに進めていきたいと考えています。



分科会を踏まえての総括集会。



来年の第20回大会は山梨で開催されます。

# 第9回酒パック・リサイクルリング問題研究会 報告

<日 時>平成 17 年 7 月 29 日 (金)

<場 所>神戸市産業振興センター

<参加者>大阪国税局、日本酒造組合中央会、酒造メーカー 8 社 (霧島酒造 (株)、月桂冠 (株)、沢の鶴 (株)、三和酒類 (株)、白鶴 (株)、日本盛 (株)、宝酒造 (株)、辰馬本家酒造 (株))、小売酒販組合 2 団体 (神戸小売酒販組合、南但小売酒販組合)、印刷工業会、容器メーカー 6 社 (アイピーアイ (株)、大日本印刷 (株)、凸版印刷 (株)、日本紙パック (株)、日本テトラパック (株)、北越パッケージ (株))、中間処理会社 ((株) ウエダ)、製紙会社 (西日本衛材 (株))、業界紙 ((株) 醸界通信社)、集めて使うリサイクル協会 計 36 名

今回の酒パック研は、神戸での開催ということもあり、関西の酒造メーカーに多数参加していただきました。

会議はまず、印刷工業会液体カートン環境委員会から平成 17 年容器包装リサイクル法見直しに向けての現在の論点が報告され、そこから「酒パックリサイクル」の現状および今後の取り組みに関する課題等が提起されました。

容り法は、まだどのように見直されていくか明確ではないものの、EPR=拡大生産者責任による役割の拡大など、事業者にとっては決して安閑として居れる状況にはないようです。酒パックについても、リサイクルルートを活かすなど自主的取り組みが必要になります。

また、印刷工業会委託事業「アルミ付飲料用紙パックリサイクルプロジェクト」並びに地球環境基金助成事業の取り組みについて、集めて使うリサイクル協会が報告しました。

従来から推し進めている「エコ酒屋」をさらに拡大し、特に小売酒販組合としての組織的活動を推進すると同時に、行政と連動して地域の酒パックリサイクルを面展開してゆくべく活動することが報告されました。

さらに、関西における酒パックの受け入れ企業として、未洗浄パックの中間処理、さらには製紙原料として活用する製紙会社から、それぞれ受け入れ態勢は万全である旨報告がありました。



## 【第 10 回酒パック・リサイクルリング問題研究会 ご案内】

- 日 時 2005 年 11 月 22 日 (火) 13 時 30 分～15 時 30 分 (懇親会 15 時 30 分～16 時 30 分)
- 会 場 熊本市国際交流会館 3 階 国際会議室 (熊本市花畑町 4 - 8)
- 問い合わせ先 NPO 法人集めて使うリサイクル協会 (電話 06-6209-7155)

**会員募集中!** 入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私達の仲間になってください!

会 員 区 分	年会費 (非課税)
団 体	正会員 60,000 円
	賛助会員 10,000 円
個 人	正会員 6,000 円
	賛助会員 1,000 円

当協会ホームページでは、会員企業の参加によるリサイクル商品の販売も行っております。(お買い得の月替わり SALE 商品もあり!) どうぞご利用ください。

<http://www.r-kyokai.org/>